

# とうきょう すくわく プログラム活動報告書

施設名	太陽の子港南三丁目保育園
施設所在地	港区港南三丁目5-21
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

体をたくさん動かすことが楽しいと感じ、自発的に活動し心身ともに調和のある育ちをめざす

### <テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

今年は乳児クラスのための、乳児が室内でもたくさんの活動ができる保育を工夫することで、子どもたちの成長や発達を引き出していくことを目的とする。

テーマの設定した経緯としては入園時子どもたちは、全体に歩き方が弱よわしい感じで、少しの段差でも転倒して鼻や顎をぶつける事などがあった。港南地区はタワーマンションに囲まれた地区で、子どもたちも高層住宅に住んでいる為、外に出る機会が少なくなってしまうのではないかと考えた。また、走り回ると苦情が来ると保護者から話を聞くこともあった為、保育園で、子どもたちがのびのびと身体を使って、思いっきり運動したり、身体を動かすことの楽しさを体験し、心身ともに健やかな発達を促していきたいと思い取り組むことにした。

この取り組みは子どもたちが自ら楽しんで取り組むことを重視することで、子どもの五感を刺激し運動機能をバランスよく整えていくことと共に、意欲の芽生えや、自己肯定感を高め、人との信頼関係を構築しながらバランスの良い成長発達を目指していきたいと考えた。園庭がない園でも工夫をすることで、取り組むことも多い学びになると考えた。

## 2. 活動スケジュール

6月に話し合い、すくわくのチームを立ち上げる。各クラスから代表者が立候補し、プログラムについて活動の方向性や子どもの発達度合いをみて、具体的な内容を話し合いを行う。

月2回すくわくのチームで話し合いを持つ。子どもの発達についての理論などテーマについて学び合いを行い、子どもたちの観察や次の活動について学びを深めていく（次回の内容について、振り返り）

6月～1月

月1回 運動遊びの取り組みを全クラスで取り組む

月1回 リズム遊びを全クラスで発達に合わせて取り組む

8月5日、11月5日

株式会社ここん作業療法士の定金先生による子どもの運動の様子を見てもらい、具体的な遊び方や、固定覚、前庭覚について話していただき、そのアドバイスを活動に取り入れる。

1日14日 作業療法士定金先生による振り返り

先生からのフィードバックについては、園内でも共有し、スタッフ全員が同じ方向性で活動できるようにする。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

株式会社ここん 作業療法士 定金先生による巡回アドバイス料

トンネル トランポリン 観点式ブランコ マット、感触マット、フープ、鉄棒、梯子、タライ、ボール、跳び箱、ハイハイアスレチック、センサーパズルマット、CD,コーン、平均台、机、イス、ラダー、ペットボトル、フープ、カラビナ、ストレッチマット、ブランコ

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

6月

すくわくのチームを作りどのように進めていくか話し合いを持った。

7月～9月

月2回運動遊びとリズム遊びを取り入れていく。取り組んだ遊びは、そのまま運動用具を設置し、夏の暑い日は室内でいつでも遊べるようにする。

7月

高いところに上ったり、飛び降りたり、部屋をかけたりする様子を見て、坂を作りよじ登り飛び降り、滑り降りたり、坂を下ったり足を上げて台によじ登りが出来る環境を作り遊んでみる。保育士は危険の無いようにしっかりと安全を見ながら進める。なるべく子どもの自発的な行動を重視し、禁止の声がけを行わないようにする。

固有覚の遊び、前庭覚のあそび など取り入れていく

<子どもの様子>

何度も挑戦する子どもと、疲れてしまいへたり込んでしまう子どもと、運動に差がかなりあることが分かり、次回は、それぞれのチャレンジしやすいチームに分かれて遊ぶようにする。戸外で遊べない日は各クラス遊びに取り入れて楽しんだ。

➡運動の発達段階に応じてグループ分けをおこなった

8月…ここの定金先生に来園いただき、取り組みを見ていただいた。

**【定金先生による各クラスの評価】**

0歳児…担任から、歩行不足や探索活動が少ないと感じている。

1歳児…全体に自分の身体の使い方がぎこちなく何もないところで転倒したりしている。

2歳児…部屋の中で静かな遊びを好み、走ったり体を動かすことがあまり得意ではない。また体を動かすとすぐに疲れてしまう子どもが多い。

先生からは身近なもので環境を作って少しでも体を動かしたり、探索活動をしようとしているアイデアや環境作りが素晴らしい。0歳児は部屋でも活動できる環境を作って子どもたちものびのびと運動を楽しんでいる。

先生からの提案…運動能力をを高めるためにボディイメージを作る3つの感覚「触覚」、「前庭覚」、「固有覚」を刺激する運動を行う。体の軸を育て身体の使い方が分かり生きる力を育てて行く活動を行う。

**【くぐる】 【転がる】 【バランスをとる】 【ぶら下がる遊び】 【よじ登る】 【跳ぶ】** 運動を取り入れる。

9月～10月…はしごを使ってぶら下がるよじ登る、ブランコを使って回転したり、揺れる動きを経験する。ピーズマットを歩くマットを転がる、平均台を歩くなどの遊具を設定し自由に遊ぶ環境を考えいつでも遊べるようにした。

定金先生によるアドバイスをいただいたことで新しい遊びや道具を導入

11月…11月5日ここの先生に取り組みを見ていただく。

**【定金先生からの評価】**

体を動かしている姿が見られ、身のこなしがスムーズになっている。足のつま先もしっかりと使い運動している。運動をしながら自己理解から自分の感情を上手に出しながら、相手の様子も見て回避をしたり、友達のやっていることもやってみようとする様子も見られ、他を見る余裕が出来ていると感じた。

**【先生からの助言】**

・コントロールする力、制御できる遊び調整する遊びを養う。

**【滑る・スリルを味わう】 【動いているものにしがみつく】 【ぶら下がり】 【重たいものを運ぶ】**

**【回転する】**動きを入れる。

12月・・・重い箱を押したり、リュックを運ぶ、ソフト平均台をグラグラさせつかまり体を支えながらつかまる。横歩きをするなどの動きを入れた運動を行った。

1月・・・振り返りを行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

<活動中の子どもの姿>

- ・取り組むうちに運動することが大好きになり、何度でも挑戦する姿が見られるようになった。
- ・今までチャレンジしないことも、友達の様子を見て自分もやってみようと、高いところによじ登ったり、坂をハイハイで登ったり  
立って、よじ登ったり自然と次のチャレンジをしながら次のチャレンジにつなげていた。
- ・始める前は、足がバラバラになってもつれたり、やりたくてもうまく体を使えなかった子どもたちが、身のこなしがスムーズになり友だちの動きを回避しながら動けるようになった。
- ・全身を使って動くのが大好きになり自己理解から他者理解が出来る余裕が生まれてきた。
- ・手足をしっかりと動かせるようになり、自分のボディーイメージが出来るようになった。

<保育者の関わり>

・なるべく規制する言葉を使わずに、子どもが活動したい気持ちを汲み取りながら、もっとやってみたい気持ちを引き出した。

事例として、飛び降りて遊びたい子には、すぐにマットを敷いて子ども自らやりたい気持ちを汲み取りながら活動を支えた。

・発達によって好きな遊びが違って十分活動できない子の配慮として、クラスを取り払いグループ分けをして、もっと安心して取り組めるよう考えた。

・0歳児は時には、クラスで取り入れられる環境を作りをし、十分に遊べるように工夫した。

<定金先生の話を受けて>

・触覚、固有覚、前庭覚について自分たちでも調べてみて、どんな動きやまたどんな効果があるのかをしり

打ち合わせをして、巧技台の組み立て方を考えた。

初期のころ



10月ころ



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

#### <0歳児クラス>

1, 2歳児とは動きが違うため、もっと子どもたちが自分でチャレンジ出来る方が良いのでは思い、クラスの中につつでも遊べる環境を作った。(別紙参照)

#### <1歳児>

・クラスの中で月齢差や体幹差があり、子どもの動きに入れなかった子がいたので、もっと子どもたちが自分で楽しいと感じチャレンジできるように、クラスの中だけではなく、クラスを取り払い子どもたちにあったグループ編成をしたことで、みんながトライできる環境になり、楽しめるようになった。このすくわくを取り入れることで、食事にも変化があり、足をしっかりついて食事をしたり、普段から口を開けていた子どもも、食具をしっかりとって食事が出来たりと、変化が見られた。今後は室内でもっと、身体を動かして遊べるスペースを考えていきたい。また、子どもたちの気持ちが先に行き、身体が伴わない子へのアプローチがもっとできるとよいと思う。

#### \* 定金先生より \*

保育士の気転により、色々なアイデアで運動を楽しみ、子どもたちの力量を試すことが出来ていて、子どもたちの変化を明確に感じている。子どもたちも、普段なかなか遊ぶことが出来なかったことを体験し、楽しいと感じ、子どもたちの遺伝子のスイッチが押され成長発達に良い影響が出ている。今後は部屋の中で、マットを少し重ねたり、ビーズクッションなどを重ねて歩いたり飛び降りたりする場所を作ったり、筋肉が弱いお子さんは、まずランポリンなどをして、筋肉の準備をしてから運動をすると身体の筋肉の反応がしやすくなると思う。

#### <2歳児>

すくわくを始めたころは、あまり身体を動かしたくない、室内にいたい子どもが多かったが、運動をするようになり、身体を動かすことが大好きになった。また、室内でも何も無いところでつまずいて顔を打つ子も多く、手が出なかった子が、手をつけて転んだり、転倒することも少なくなった。また散歩中もさかみちや、長距離も歩けるようになり、階段の上り下りも一足一段が出来、体幹が安定し、上り下りが出来るようになった。また、友達との距離感やつかめず、人とぶつかったりが多かったが、保育士は、なんでも禁止せず、運動をある程度自分で考える環境を作り行うことで、子どもが距離感を考えて行動したり、危険を回避する能力もついた。また、順番を待ったり、友達とのかかわりを考えたり、想像したり、見立てたりする能力もついてきた。

< 定金先生より >

子どもの活動にストップせずまずはやってみようとする姿勢が保育士にあり、子どもたちにも考えさせる余白を与えている。そのことが自分でどうふるまおうかと考え行動することにつながっている。また、階段を上がることは身体の軸がしっかりとしたことにより出来ることで、日常生活の自立も出来るようにつながる。今後は動いている物に体を合わせる動きを取り入れたり、腕を上げたり、ボールを投げたりする動作や、前庭覚の動きを取り入れるとよい。

< 園長より >

まずはやってみようという精神を大事にし、保育士が提案してきたことを行えるように考えた。安全面なども自分で確かめたり、やってみて発達の度合いを見てアドバイスを行い、もっと子どもが自分でチャレンジ出来る成長発達に合わせた取り組みを提案し、保育士もグループ分けをしてくれたり、0歳児クラスはクラスの中で難易度を調整して遊んだり試行錯誤できていた。どのクラスも、子どもに活動を禁止してしまうのではなく、どうしたら楽しめるかを考えて援助しているところがよかった。また、前庭覚、固定核の運動はどんなことがあるのか調べて、次の運動に活かして取り組んでいた。さらに新園開園で、皆ですくわくを取り組み保育の方向性を考えたり、学んだりでき本当に良い機会となった。保護者からもよい取り組みをしていると保育園に対して信頼を寄せていただき、保護者と保育園が良い関係で繋がれたと思う。地域の方にも説明するととても賛同していただけた。

< 定金先生より >

園長をはじめまずはやってみる事を大切に進めていて、保育士も子どもも楽しそうだった印象を受けた。チームワークの良さにもつながったのではないかな。またこの取り組みを続けることが、子どもの成長に良い刺激となり素晴らしい結果となった。子どももスモールステップから進め、出来たことを実感しまた新しいチャレンジにつなげていけてよかった。また、0歳児のジャストライトチャレンジに保育士が気づき環境を作っていたのも素晴らしいと感じた。来年も継続してほしい。

➡運動の中で友だちの動きを見て譲ったり、順番を待ったり、相手の動きをみてぶつからないように回避する能力を身に付けられた。

➡体が安定することで、上記のような行動が自然とできるようになる。階段も安定して上り下りが出来るようになったのも、保育中もよろけたり転んだりすることが少なくなったことも各クラスから報告され、すくわくの取り組みではないかと実感を感じている。